

2021 年 2 月 20 日

公益財団法人 庭野平和財団 御中

ムリンディ/ジャパン・ワンラブ・プロジェクト
日本事務所代表 ルダシングワ真美

2020 年度助成金の交付決定を受けた事業が完了したので、関係書類を添え、以下の通りご報告申し上げます。

記

1. 助成事業の名称

ルワンダにおける義肢製作所建築プロジェクト（コード番号：20-S-006）

2. 助成金の交付決定額：2,000,000 円

機器購入費・材料費として 2,164,000 円

清算額 2,264,992 円

差額 100,992 円

* 尚、差額は寄付金などの自己資金で補った。

3. 助成事業の実施期間

2020 年 7 月 1 日から 2020 年 12 月 31 日まで

4. 助成：@」事業の成果

（1）対象地域・実施場所

ルワンダ共和国キガリ市ガサボ・キミュルラ地区

（2）事業の経過

2020 年 7 月 ルワンダ事務所代表によって、義肢製作所再建の建築が継続。
義肢製作所にあたる 1 階部分の基礎工事・敷地を囲む塀の設置
など。

政府より強制撤去された建物から再利用できる資材の取り出し
と搬送。

2020 年 8 月 日本事務所代表、ルワンダへ渡航。
1 階床部分に強制撤去場所から取り出した石を砕き、敷き詰める
作業。コンクリートを流す作業に関わる準備など（主に鉄筋を
組む作業や必要な資材や人材の調達など）。2 階部分につながる
柱の鉄筋組み作業など。

強制撤去場所から再利用できる資材の取り出しと搬送。

2020 年 9 月 1 階と 2 階の間部分にコンクリートを流し込む作業。電気や水回りの整備。壁を作るためのブロック製造作業など。

強制撤去場所から再利用できる資材の取り出しと搬送。

2020 年 10 月～12 月 1 階の床部分に石などの敷き詰めが終了し、コンクリートを流し込む作業を終える。壁のペンキ塗り。トイレ・洗面台などの設置。窓枠・ドアを作り、設置する。

12 月下旬に借家から建築現場に引っ越し。政府から倉庫として借りている代替地の荷物の移動（必要最小限の義肢材料や機材類と生活に必要な品々など）。

（３）事業の成果等

本来であれば日本事務所代表は 3～5 月を帰国期間とし、6 月にはルワンダに戻り、ルワンダ事務所代表と建築作業を進める予定であったが、コロナウイルスの影響により、ルワンダの国際線の発着が止まったため、日本滞在期間が延びた。8 月には国際線発着が再開し、すぐにルワンダに戻った。

その時点の建築作業の進捗状況は、建築を予定していた建物の床一部に基礎となる石を敷き詰めている途中で、また上の階に続く柱の鉄筋の一部が組み終わった状態だった。土地を囲む塀の建設はすべて終了しており、外部からの盗難を防ぐためにも塀を先に作る必要があったためである。

建築にかかる予算を十分に持ち合わせておらず、経費を節約するために、もともと活動を行っていた土地（2 月に政府から強制撤去された場所）にあった建物（既に解体済み）から取り出したレンガや基礎を作った時に使った石などを、新たな建築現場に運び込み、それらを使用しながら建設を進めた。但し元の活動場所から石を掘り出す作業、更にそれを床に敷き詰めるために砕く作業、またレンガを取り出す作業にはそれなりの手間や人件費、運送費がかかることから、必要に応じて購入した。

建物に使う鉄筋については、上記のように壊された建物のものを再利用することは不可能なため、すべて新たな資材を購入した。また 1 階と 2 階の間部分にセメントを流し込む作業において鉄筋を組んでいくが、支えの資材である木も購入したが、ルワンダでは環境を守るため木の切り出しが制限されており、すべてそろえるのに時間がかかった。

今回の助成金で建物の床にコンクリートを敷き詰めること、また鉄筋の柱にもコンクリートを流し込むこと、更に上の階の（1 階と 2 階の間にあたる）床となる部分の鉄筋を組み上げ、その部分にもコンクリートを流し込むことを目標としてプロジェクトを進めた。またそれに伴う水道整備や電気整備も並行して必要だったので、自己資金で賄った。

実際のコンクリートを流し込む作業の時は、50 人近くの人員を動員し、セメントをこねる傍ら、こねたセメントをバケツリレーのようにして鉄筋をめぐらした床や柱

にコンクリートを流し込んだ。セメントを運ぶベルトコンベヤーを使うことはルワンダでは一般的ではなく、この作業は人海戦術で行われることが多い。コンクリートの固さや固まり具合にムラができてしまうので、一気に作業を終わらせるつもりで作業を進めたが、途中で雨が降ってしまい、作業を中断。また人力でコンクリートをこねるのではなく機械を使用した（少量のセメントこねの場合は人力でこねる）、途中でオーバーヒートしてしまい、修理に時間がかかってしまった。そのため結果としてコンクリートを流し込む作業は数日かかることとなった。

またコロナ禍であったため、作業をする時間も限られ、夕方5時にはすべての作業を終わらせるように予定を組んだため、当初の予定より作業が遅れがちとなった。

全ての作業員は作業に取り掛かる前に検温をし、作業中はマスク着用を義務としたが、マスクをしながらの作業は体に対しての負担も多く、マスクを顎まで下げて作業している人員も見かけられた。その都度注意をしたが、その時はマスクをし直すものの、気が付くとマスクがずれていることがほとんどだった。作業場には簡易の手洗い場を準備し、手洗いを心掛けさせた。幸い作業員の中から COVID-19 に感染したものはおらず、今後も衛生管理をしっかりやりながら作業を進めていく予定である。

作業員は基本的には日払いとしたが、鉄筋を組む作業やコンクリートを流し込む作業の時はひと作業についての契約払いとした。特にコンクリート作業の時は人員も多く、一人一人の作業をコントロールできないので、契約払いの形を取った。

今回の助成金からではないが、トイレや水回りの部品は節約をするために中古を探し求めた。また以前の義肢製作所ではコンセントなど電気の配線が適当でなかったため作業しづらかったので、コンセントの位置なども実際に作業をする義肢装具士たちと相談して決めていった。

理由は後述するが、1階は義足を製作する義肢製作所と、別途遠方から来る障害者が宿泊できる部屋、並びに小さな会議のできるスペース（歩行訓練などの訓練するスペースを兼ねる）からなる設計であり、今回先に宿泊部屋と会議スペースを完成させ、そこに引っ越しながら建築作業を進めている。

（４）現在の状況並びに今後の予定

建設を進めている建物は全体で3階建てで、1階が今回助成金を申請した義肢製作所となる。助成金だけではこの義肢製作所の完成まで至らないため、10月から1月にかけて建設資金を集めるクラウドファンディングを行った。

その結果予定の倍の1200万円が集まったので（手数料を引かれない状態）、今後はこの資金を使って義肢製作所の完成を目指し、更に2・3階部分の建設も進めていく。

20年2月に政府に活動場所を強制撤去されてから、一軒家を借り、そこに住居を移した。そしてその敷地内にあった使われていない小さな建物を仮の義肢製作所として改築し、義肢製作活動も継続させながら建築作業を進めた。十分な広さはないものの、義足を求めてやってくる障害者も少なからずいたため、その場所で月に2本程

度の義足を作っていた。製作本数は通常よりも少ないペースである。

しかしながらその借家は当然家賃の支払いも発生するため（月約 65,000 円）、その家賃を節約させるために 12 月末に建設中の義肢製作所の一角に引っ越しをした。前述のように建設予定の建物の 1 階は義肢製作所と遠方から来る障害者が泊るための部屋と、歩行訓練をするための場所兼小さな会議ができるスペースがあるため、その場所の建設を先に進め、住居を移した。

義肢製作所については、現在も建築中ではあるが、必要最低限の義足を作る場所を整え、また機械類も設置し、少しずつ機材を運び込みながら一角で義肢製作作業を進めている。借家にいた時も引っ越してから、義足を作るペースは月約 2 本程度であるが、今後も障害者が訪れることは予想されるので、それについては対応していきたい。当初義肢製作所が完全に出来上がるまで、義肢製作は中止する予定であったが、義足を求める障害者が多いことから、この決断に至った次第である。今後このメインの義肢製作所となる部分を整え（電気の設置・トイレや洗面台の設置など）、4 月には完成をしたいと考えている。

義肢製作所の完成後、クラウドファンディングで集めた資金と、引き続き日本で建築資金を募りながら、2・3 階部分の完成を目指して行くが、現状すべての建物が完成する時期の目処は立っていない。

また義肢製作所が完成したら、実際に作業に使っている機材もリニューアルしたいと考えている。現在使っている機械や工具類は、1997 年に開所した当時のものを使っており、老朽化が激しく作業がしづらくなっていることがあり、これらを新しく購入するための助成金も探していきたい。ルワンダでは義肢製作に適した機械類を手に入れることは難しいため、日本での購入を検討している。それらの品物は義肢製作に支障がなければ新品・中古を問わない。またそれと並行してそれらの品物を日本からルワンダに送る手段も調査中である。以前日本からルワンダにコンテナを送った経験があり、資機材の容量などが明確になったら輸送手段も自ずと見つかると思うが、輸送費の問題にも対応していかななくてはならない。

義肢製作所が完成したら、ルワンダにいる関係者などを呼び、開所式を開く予定である。

また本年度日本事務所代表は活動の状況、建設の進捗状況などを報告しに日本に帰国する予定であるが、コロナウイルスの終息が見えてこないため、時期については検討中である。帰国の際は各地で報告会を開いたり、学校を訪問する予定である。

5. 添付書類

- ① 会計報告書
- ② 助成金出納帳
- ③ 領収書
- ④ 建築状況の写真

建築作業の様子



1階部分の基礎工事。
柱となる鉄筋を組んでいる。



1階と2階の間にコンクリートを
流すための準備。
板を敷き詰め、この上に鉄筋を
組んでいく。



1階と2階の間。敷き詰めた板を
支えるための木。



敷地を囲うための塀は、
強制撤去された建物に使った
レンガを再利用した。



1階と2階の間に鉄筋を
張り巡らせる。



セメントを流し込む作業に
動員した作業員たち。



セメントをこねる機械は
レンタルした。
この日の作業員は50人以上。



こねたセメントを組んだ鉄筋に
流し込む。



鉄筋で組んだ柱にセメントを
流し込む。



建物の中の間仕切りは
撤去された建物のレンガを
再利用した。



1階と2階の間に支えとして
使っていた木を取り除く。



建築許可の看板。



義肢製作所にあたる内部の
床の工事。



義肢製作所の床工事。
レンガも再利用し、建物の
壁に使うブロックは経費を
節約するために自分たちで
作った。



浄化槽へ続く水回りの整備。



借家に払っている家賃を
節約するために、先に
遠方から来る障害者の宿泊
する場所を整備した。
12月に借家から引っ越す。



会議スペース・歩行訓練スペース
を整え、ここに隣接する部屋に
引っ越した。
家賃を払う必要がなくなったので
月々65,000円の節約ができる。